

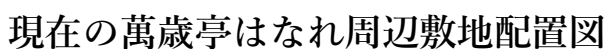
萬歲亭はなれ



萬歳亭とは、明治24年（1891）宮田にあった三好退蔵邸を移築したもので、後に名付けられました。

明治31年（1898）2月、福島（現在の串間市）滞在中の種樹公は萬歳亭記をつくり、そこに、亭の名の決定を記しています。

Banzaitai



明治37年（1904）に種樹公が没して以降、もともと古家を移したため腐朽（ふきゆう）した萬歳邸は昭和17年（1942）主屋を取り壊し、その東側（現在の高鍋町歴史総合資料館の位置）に新邸が建てられました。その際、別棟（8坪26㎡）はそのまま残し、屋根を瓦に改めて内部を改修し、縁側、台所、湯殿が増築されています。

種樹公の次男、種英公はこの亭を書斎として愛好しました。

昭和62年（1987）2月、老朽化のため、保存もふくめ再建復元したのが現在の萬歳亭はなれです。

萬歳亭という名前の由来は諸説あります。

一、 版籍奉還の際に誤って返還した福嶋の私有山林が種樹公のもとに返還された際に、旧臣が「萬歳（ばんざい）」と喜び連呼して祝意を表したのにちなんで「ばんざいてい」とするもの。

二. 縁起の良い言葉「鶴は千年、亀は万年」及び、舞鶴神社参道西側にあった種樹公の旧宅を、千歳亭（せんざいてい）としたことから、後に居住した住宅を「まんざいてい」とするもの。

明治14年（1881）種繁公に家督を譲り、明治15年（1882）東京から帰郷した種樹公は、舞鶴神社参道西側にあつた建物を「千歳亭」と命名して10年を過ごし、その後、萬歳亭へ移りました。

萬歳亭はなれには種々の趣があり、その時節の風情を愉しむことができます。

前庭



庭には梅の木が多く植えられています。開花はおよそ2月の節分のころで、早くて5月頃には梅の実がなります。梅の花には、厳しい寒さでも咲く強さがあり、縁起物とされます。他に先駆けて咲き春を告げ、梅香、果実と楽しませてくれるのも魅力です。梅の幹には、早いうちに老樹の趣が出るといわれ、その姿も見どころの一つです。萬歳亭とともに年月を経てきた樹姿があります。

奥庭の水琴窟（すいきんくつ）では、琴がかなでるような澄んだ音色が響きます。

水琴窟とは、手水鉢（ちようずばち）や蹲踞（つくばい）などの下につくられた小さな洞窟の中に、水滴を落として窟内壁面に水音を反響させ、地上に漏れてくる幽か（かすか）な響きを楽しむ設備で、別名を洞水門（どうすいもん）とも言います。日本造園技術上最高傑作のひとつとされ、造りはじめられたのは江戸時代初期と言われています。



水琴窟

蹲踞の役石には
吾唯足知
(われただたるをしる)
の文字が刻まれています。

萬歳亭 | Banzaiten

季節の展示



ひな人形展

期間
2月初旬～3月初旬

段飾りのひな人形や日本人形、掛け軸などが展示されます。
萬歳亭はなれ・黒水家住宅・高鍋温泉めいりんの湯の3会場で、異なる展示をお楽しみいただけます。

五月人形展

期間
4月初旬～5月初旬

端午の節句にまつわる五月人形や兜飾り、その関連の品が展示されます。
高鍋町歴史総合資料館収蔵品より抜粋されたもので、展示数は10点ほどです。



開館のご案内

開館：午前10時～午後5時
(入場は午後4時30分まで)
休館：毎週月曜日(祝日は除く)
祝日の翌日(土日祝は除く)
12月28日～1月4日
入場：無料